

案件（3）市民意見をふまえたルート案の修正について

1. パブリックコメントで寄せられた市民意見について

- ◆東部地域（粟生間谷）から箕面萱野駅や箕面駅へのアクセスについて、パブリックコメントで提示していた（仮）粟生・萱野線では、各駅までの所要時間が長くなることから、箕面山麓線の存続を望む意見が非常に多く提出された。
- ◆北大阪急行線の延伸に伴う路線バスの再編によって、これまで不便だった市内の東西移動の利便性が向上することを望む意見が多く提出された。
- ◆また、社会実験路線について、市の費用負担を伴う以上は最大限利便性が確保された路線として設定するよう求める意見もあった。

2. ルートの修正（案）について

①箕面山麓線（箕面萱野駅経由箕面行）の設定（復活）について【資料3-2を参照】

- ◆過去の検討の中で、路線の効率化等のためには廃止もやむを得ないという判断により箕面山麓線を廃止することとしていたが、パブリックコメントで多数の意見があったことから、一定期間の社会実験路線として設定（復活）させることとする。
- ◆路線の設定（復活）により、ルートが重複する（仮）粟生・萱野線の「粟生団地～間谷住宅」及び「箕面駅～箕面萱野駅」の区間はルート設定を取りやめる。

②箕面中央線及び（仮）箕面小野原線について

- ◆箕面中央線及び（仮）箕面小野原線の箕面萱野駅へアクセスするルート設定については、箕面船場阪大前方面のルートと需要が分散することや、箕面萱野駅・箕面船場阪大前駅にアクセスする頻度がそれぞれ少なく、利用者の利便性が低くなるという課題があった。【資料3-3を参照】
- ◆市としても今後厳しい財政運営となることが見込まれる中で費用負担をする以上、利用者の利便性が最大限確保されることを目指す必要があるため、箕面中央線及び（仮）箕面小野原線を箕面萱野駅・箕面船場阪大前駅でループする路線として設定する案を阪急バスに提案した。【資料3-4を参照】
- ◆阪急バスへの提案に対し、阪急バスとしては、路線を別々にループ化させるよりも2路線を統合（一体化）した方が車両や人員の運用も効率的になり、かつ、市内の東西移動の利便性向上にもつながるのではないかとの回答があった。【資料3-5を参照】
- ◆また、市民意見では、（仮）箕面小野原線の路線名称と運行地域が一致しておらず分かりにくいという指摘があったことから、ルートの修正に伴い路線名称を以下のとおり修正する。
 - ・箕面中央線と（仮）箕面小野原線の統合路線 → （仮）箕面小野原線
 - ・（仮）箕面小野原線の箕面船場阪大前駅経由千里中央行 → 小野原東線

③粟生団地線について【資料3-6を参照】

- ◆市民意見では、粟生団地線に関する意見として、色々なルートに本数が分散して不便にならないようお願いしたいという意見があった。
- ◆粟生団地線では、国立循環器病センターや大阪大学箕面キャンパスの移転により、バス利用者の減少が著しい状況にあり、阪急バスにおいてもルート設定の見直しの必要性が生じたことからルート案の修正提案があった。
- ◆修正提案の内容は、関西学院千里国際キャンパスの循環路線を、ルートの一部変更と他路線で代替して運行するというもの。